

研修名 保育士研修B「はぐくみ」2（障がい児保育研修）

平成27年9月8日（火）13：30～16：00

講演「おおらかにかまえて安心感を育てる保育を

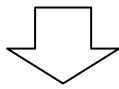
～発達に弱さを抱えた子どもと周りの子との関係づくり～」

講師 宮里 六郎 氏

（1）個別的対応—気持ちと行為を分けて一旦とまること

AD／HD の子どもへの対応として行動コントロールのさせ方。

「たたきたくなったら先生のところへおいで、抱っこしてあげるから」



気持ちと行為に分ける

※2歳児と同じで、ブレーキとなり方向転換できる。



ブレーキとなる

（2）集団的対応—他児との折り合いの片付け方、周りの子との関係づくり

説明説得ではなく「イヤだった気持ちを」引き受け入れること・・・

※被害を被った子に対して、『そうだよね。すぐ怒るからいやだね』と声を掛けることにより心が落ち着いて、発達に弱さを抱えた子を受け止める心のゆとりが膨らむ・・・受け入れる力が出来る。

※周りの子どもが無視したり排除したりしても全面的に否定しない事。発達に弱さを持ったこの立場で説得・説明することが大切。

※保育者の気持ちや願いを伝えることが重要。

（3）否定的事実を肯定的に解釈し直す

「特別なケーキを作っているみたい」



気持ちを前提としての状況をつたえる

※トラブルの場面での緊張した状況では、気持ちを表す言葉では伝わらないので、気持ちの前提として状況や事実を伝えることが必要

※「特別な」否定的言い方を肯定的に解釈し直して代弁して周りの子とつなぐ力が求められる。

☆大人が寄り添うより、友だちに分かって欲しいと思っている

【感想】

実践記録を中心に話をしていただいたので分かりやすく、又、自分の保育を見直す良い機会となりました。

話の中で特に心に残ったのは、

- ・AD／HD の子どもへの対応として行動コントロールのさせ方
「たたきたくなったら先生のところへおいで、抱っこしてあげるから」です。

私だったら・・・

たたかなかった行動に対して「よく我慢したね」と抱っこしてあげるかな？
と思いましたが、子どもに気付かせるためには、「たたきたくなったら・・・」と言う事でたたきたくなった気持ちの段階で一旦停止させるために「抱っこしてあげる」という具体的な楽しみを提示して心を揺り動かすことでたたくという行為の直前にストップさせていることを知り、勉強になりました。

- ・もう一つ 集団的対応・・・他児との折り合いの付け方のところで、私も同じような事で悩んだ事があったことを思い出しました。
よく似た声掛けをしていたなと思い返し、それで良かったのだと自信につながりました。

これからの保育に、
「おおらかにかまえて安心感を育てる保育を～発達に弱さを抱えた子どもと周りの子どもとの関係づくり～」を心かけ講演内容が活かせるよう頑張りたいと思います。

ありがとうございました。

(井手町立玉川保育園 阪田 美穂・細川 洋子)